

## 8.1.20 経済波及、雇用

## (1) 調査事項

調査事項は、表 8.1.20-1 に示すとおりである。

表 8.1.20-1 調査事項

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、大会競技会場の施設や選手村の整備など、大会の開催・運営に不可欠な取組を着実に進める。</li> <li>・東京都では、大会開催中の混雑緩和に加え、企業の生産性向上にもつなげるため、時差 Biz や働き方改革にも資するテレワークをスムーズBizとして一体的に進めている。2019年(令和元年)夏には、スムーズBiz推進期間を設定し、企業等に多様な働き方の実践等の取組を働きかけるとともに、東京 2020 大会に向けてさらに企業等の幅広い参加を得ることにより、新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルの確立を目指し、東京都と組織委員会が連携して企業・個人に働きかけている。</li> <li>・新規恒久施設については、東京 2020 大会後も多くの人に利用される施設として、将来にわたり有効に活用されるよう後利用を図るほか、選手村については、住居等として生まれ変わる計画である。</li> </ul>

## (2) 調査地域

調査地域は、東京都内及び全国とした。

## (3) 調査手法

調査手法は、表 8.1.20-2 に示すとおりである。

表8.1.20-2 調査手法

調査事項	ミティゲーションの実施状況
調査時点	開催前、開催中及び開催後とした。
調査期間	ミティゲーションの実施状況 開催前、開催中及び開催後とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況 東京都内及び全国とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況 「東京2020大会振り返り」(令和3年12月 組織委員会)や「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」(令和3年7月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局)等の関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1.20-3(1)～(3)に示すとおりである。

表 8.1.20-3(1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、大会競技会場の施設や選手村の整備など、大会の開催・運営に不可欠な取組を着実に進める。
実施状況	

東京都は、東京 2020 大会の競技会場として、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラロームセンター、大井ホッケー競技場及び夢の島公園アーチェリー場の 6 施設を新たに恒久施設として整備した。これらの恒久施設は、2020 年（令和 2 年）2 月までに全ての施設が竣工した。

また、2016 年（平成 28 年）4 月には、大会時に選手用の宿泊施設として一時使用する晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業に着手し、東京 2020 大会の選手村の整備に取り組み、2019 年（令和元年）12 月には再開発事業のうち、選手村として大会時に必要な部分の整備を完了した。



東京アクアティクスセンター  
(2020 年(令和 2 年)2 月竣工)



海の森水上競技場  
(2019 年(令和元年)5 月竣工)



有明アリーナ  
(2019 年(令和元年)12 月竣工)



カヌー・スラロームセンター  
(2019 年(令和元年)5 月竣工)



大井ホッケー競技場  
(2019 年(令和元年)6 月竣工)



夢の島公園アーチェリー場  
(2019 年(平成 31 年)2 月竣工)

出典：「東京都が整備する競技会場」(2022 年 1 月 31 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)  
<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaijunbi/torikumi/facility/index.html>



選手村

出典：「東京 2020 大会振り返り」(令和 3 年 12 月 組織委員会)

競技会場や選手村の整備状況

表 8.1.20-3(2) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・東京都では、大会開催中の混雑緩和に加え、企業の生産性向上にもつなげるため、時差 Biz や働き方改革にも資するテレワークをスムーズBizとして一体的に進めている。2019 年(令和元年)夏には、スムーズBiz推進期間を設定し、企業等に多様な働き方の実践等の取組を働きかけるとともに、東京 2020 大会に向けてさらに企業等の幅広い参加を得ることにより、新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルの確立を目指し、東京都と組織委員会が連携して企業・個人に働きかけている。</p>
<p>実施状況</p>	<p>東京都では、大会開催中の混雑緩和に加え、快適な通勤環境や企業の生産性向上にもつなげるため、交通混雑緩和に資する交通需要マネジメント (TDM) と、時差 Biz や働き方改革にも資するテレワーク等をスムーズBizとして一体的に推進している。東京 2020 大会に向けて、企業等に更なる取組の働きかけを行い、全ての人々がいきいきと働き、活躍できる社会の実現に向け、新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルの確立を目指している。</p> <p>2019 年(令和元年)には、スムーズBizの周知や企業等の先進的な取組を紹介するためのイベントや表彰式を開催した。また、2019 年夏にはスムーズBiz推進期間を設定し、テレワーク、時差出勤、計画的な休暇の取得、物流の工夫等の取組を働きかけるとともに、大会までに 3 回のスムーズBiz実践期間を設け、企業等への呼びかけを行った。</p> <p>東京 2020 大会が開催された 2021 年(令和 3 年) 7～9 月の 3 か月の都内企業のテレワーク実施率は、それぞれ 61.9%、65.0%、63.9%であった<sup>1</sup>。また、スムーズBizの一環である 2020TDM 推進プロジェクトには 2021 年(令和 3 年) 9 月 5 日現在で、910 団体、参加企業 52,202 社・事業所の協力が得られ、時差 Biz には 2022 年(令和 4 年) 1 月 28 日時点で、2,286 社・事業所の企業が参加登録をしている<sup>2</sup>。</p> <div data-bbox="352 1016 616 1384" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1018 1016 1281 1384" data-label="Image"> </div> <p>出典：「各種ダウンロード」(2022 年 1 月 31 日参照 スムーズBizホームページ)</p> <p>出典：「各種ダウンロード」(2022 年 1 月 31 日参照 スムーズBizホームページ)</p> <p><a href="https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/">https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/</a> スムーズBiz PR ポスター (スムーズBizの概要)</p> <p><a href="https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/">https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/</a> スムーズBiz推進期間 PR ポスター (スムーズBiz推進期間のPR)</p> <div data-bbox="252 1529 719 1850" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="906 1529 1390 1850" data-label="Image"> </div> <p>出典：「スムーズBizとは」(2022 年 1 月 31 日参照 スムーズBizホームページ)</p> <p>出典：「スムーズBiz推進期間結果公表イベント」(2022 年 1 月 31 日参照 スムーズBizホームページ)</p> <p><a href="https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/">https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/</a> スムーズBiz PR 動画</p> <p><a href="https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/event/779/">https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/event/779/</a> スムーズBiz推進期間結果公表・表彰式</p>

1 出典：「テレワーク実施率調査結果をお知らせします！ 9月の調査結果」(令和3年10月7日東京都報道発表資料)

2 出典：「スムーズBiz」(2022年1月31日参照 スムーズBizホームページ) <https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/>



表 8.1.20-3(3) ミティゲーションの実施状況

<p>ミティゲーション</p>	<p>・新規恒久施設については、東京 2020 大会後も多くの人に利用される施設として、将来にわたり有効に活用されるよう後利用を図るほか、選手村については、住居等として生まれ変わる計画である。</p>
<p>実施状況</p>	<p>東京都が東京 2020 大会の競技会場として新たに整備した恒久施設については、大会後には体育・スポーツ及びレクリエーションの普及振興を図り、都民の心身の健全な発達に寄与するための施設として将来にわたり有効に活用していく。</p> <p>また、選手村については、大会後には住宅となる建物等について、特定建築者制度を導入し、民間事業者の資金と開発ノウハウを活用して整備を進めている。</p>

<p><b>① 東京アクアティクスセンター</b></p> <p>◆日本水泳の中心となる 世界最高水準の水泳場</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の主要な国際大会を開催</li> <li>・水泳の裾野拡大と世界を目指すアスリートを育成 (2020年2月竣工)</li> </ul>	<p><b>② 海の森水上競技場</b></p> <p>◆アジアの水上競技の拠点</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大</li> <li>・ユニークベニューとして、イベント会場としても活用 (2019年5月竣工)</li> </ul>
<p><b>③ 有明アリーナ</b></p> <p>◆東京の新たなスポーツ・文化の拠点</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセッション方式による管理運営</li> <li>・5GやARなどの最先端技術を活用したイベント等も開催 (2019年12月竣工)</li> </ul>	<p><b>④ カヌー・スラロームセンター</b></p> <p>◆国内初の人工スラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した競技環境の下でアスリートを強化・育成 (2019年5月竣工)</li> </ul>
<p><b>⑤ 大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場</b></p> <p>◆ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的競技場</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成 (2019年6月竣工)</li> </ul>	<p><b>⑥ 夢の島公園アーチェリー場</b></p> <p>◆アーチェリーを中心として、多様な用途に活用</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり、都民に憩いの場を提供 (2019年2月竣工)</li> </ul>

出典：「大会後のレガシーを見据えた東京都の取組」（令和3年7月 東京都オリンピック・パラリンピック準備局）  
東京都が新たに整備した競技会場の大会後の活用



©晴海五丁目西地区市街地再開発事業特定建築者  
出典：「選手村の整備（東京 2020 大会後のまちづくり）」（令和3年7月 東京都都市整備局）  
東京 2020 大会後の選手村のイメージ（市街地再開発事業の完了時）